



# 『協働のまちづくり』を考える

## 特集 第4回全国大学政策フォーラムin登別

8月10日(月)から12日(水)までの3日間、登別市に自治政策などを学ぶ大学生たちが集い、市民との意見交換やフィールドワークなどから、まちづくりの実態を学び、政策などの発表と議論を行う『第4回全国大学政策フォーラムin登別』が行われました。

今月号では、その内容についてお知らせします。



### 全国大学政策フォーラムとは

地方自治体は、地方分権改革の進展などにより、担う役割と責任が大きくなる中、財政問題や少子高齢化などさまざまな問題を抱えています。こうした社会の要請にこたえるため、全国の大学では、政策系の大学院や学部が年々増加する傾向にあります。自治体の実情を検証した上で政策を提言する機会がほとんどありませんでした。

このような状況を踏まえ、同志社大学をはじめとする全国の大学や市議会、商工会議所、観光協会、市などで構成する実行委員会により、自治体政策などを学ぶ大学生が、登別市に集い、自治体などへの政策提言や議論を行う『全国大学政策フォーラム』を平成18年から開催しています。

このように状況を踏まえ、同志社大学をはじめとする全国の大学や市議会、商工会議所、観光協会、市などで構成する実行委員会により、自治体政策などを学ぶ大学生が、登別市に集い、自治体などへの政策提言や議論を行う『全国大学政策フォーラム』を平成18年から開催しています。

### 協働のまちづくりを進めるために…

『市民自治ネットワークエッセイ』の創造「協働のまちづくりを進めるためには」をテーマに行われた今年のフォーラムには、立教大学、岩手県立大学、日本大学、埼玉大学、同志社大学のほか、道内から小樽商科大学、室蘭工業大学が参加し、過去最大の7大学14グループ、104人が登別市に集いました。

8月10日(月)に登別市に到着した学生たちは、市内一円をバスで見学。11日(火)には、市役所を拠点に、市内の企業やまちづくり団体、町内会、市職員などにインタビューし、まちの現状や課題を確認するなど、グループ発表の資料収集を行いました。

12日(水)には、グループ発表が行われ、『協働のまちづくりを進めるためには』という難しいテーマに、さまざまな視点から登別のまちづくりに向けた発表がされました。その結果、最優秀賞には、埼玉大学経済学部斎藤ゼミ、優秀賞には日本大学法学部外山ゼミナールAが輝きました。

また、特に実現性の高い政策発表をしたグループに贈られる登別市長賞には同志社大学大学院総合政策科学研究科今川ゼミBが、斬新でユニークな発表をしたグループに贈られる登別市議会議長賞には日本大学法学部外山ゼミナールBチームが選ばれたほか、政策マネジメント研究所賞には同志社大学政策学部風間ゼミが選ばれました。

その後、同志社大学の今川教授をコーディネーターに、入賞したグループの代表と登別市市民自治推進委員会の木村副会長、登別まちづくり促進期成会の成田会長によるパネルディスカッションが行われました。それでは、登別市に集った若者たちが発表した政策とパネルディスカッションの一部を紹介します。